

ある日
故郷のエルフの里から
長老のおじじ様が
危篤との知らせが
入った
子供の頃から私たちを
我が子のように育てて
くれたおじじ様の
大事と会って
私は急いで
故郷へと戻った

ふう

静かだ

もうほとんど
エルフは住んで
ないんだろうか

ユウナ殿

手紙を読んで
飛んできました

おじじ様の
ご様子は何？

長老
ユウナ様が
戻られましたぞ

おお：
待ったぞ

4〜5日前から
様態が急変し
もう打つ手はないかと…

おじじ様
ご無沙汰して
おります

久しぶりだな
元氣そうだな
会えてうれしいぞ

あまり
しゃべられると
お体に障ります

ふっふ：
自分の身体じゃ

自分の最後くらい
自分でよく分かる

そんな気の弱い
事を言われては…

まあ
聞け

今やこの地に残った
エルフはわしをはじめ
わずかな老エルフ数人のみ

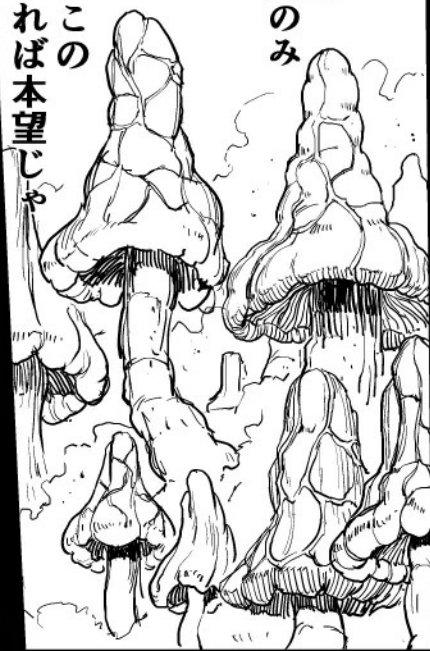
時代の流れには
逆らえん：わしはこの
生まれた地で死ねれば本望じゃ

もう・里を
出ていった者たちとは会うこともないと思っていたが

お前も
見ただろう
この里の現状を

昔はここは
エルフが大勢いて
賑わったものだが
やがてお前たち
若いエルフたちは
外の世界を夢見て
みなこの里を去ってしまつた

最後にまた
お前に会うことが
出来た：これも神の
ご加護じゃろう：





ひさしぶりじゃの…
この手触り

おお
かわいいのう

なで

なで
なで



わしに
その顔をよく
見せておくれ

さあ
ユウナ

アル

アル

アル

アル

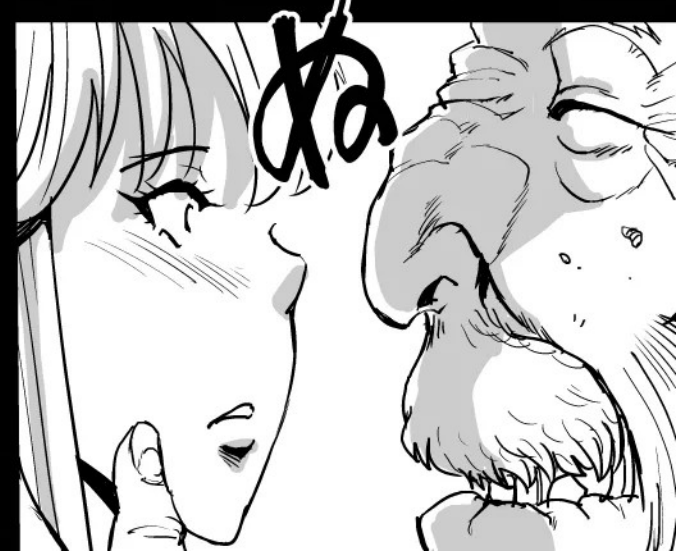


おちゅわう

ア
モモモ...



ほんと…
あの頃を思い出す
ようじゃ



ぬ



ユウナ様：
申し遅れ
ましたが

おじじ様は
この所
すこーし
モウロクして
おりました：

頭の中が
昔の頃のままだ
なってしまう事
があるのです

その：だから
今しばらく
コラえて
話を合わせて
やってみませ
んか？



ちょよ：
ちよっと：

ああ
かわいい
ユウナや
：うんうん♪
ヨシヨシ

す：
す：
すごい力：



んーん
な：なんでも

よくこうやって
おじじ様と一緒に
お昼寝したな：
と思っ



は：
話を合わせる
：って：



ん
誰と話して
おるんじゃあ？

…もう
最期なので：
うう：



おお
そうじゃな

よくお前が
歌や楽器で
ワシを楽しませて
くれたの！

久しぶりに
聴いてみると
なったわい

じゃ：
じゃあちよっと
外で笛を探して
きますわ

ギョッ
それはダメ
じゃ

わしは今聴きたい

お前が笛を取りに行くわずかな間が永遠の別れになってしまう

幸いここに...

代わりになるものがある

ぼろおはん

これで吹きなさい

そう思えてならんのだよ

ああ：目の前が暗くなってきた気がする

ハァ

あ：

ユウナ様：ここはコラえて！

おじ様 最期のわがままです

「音」は私が何とかしますから

ほら

おじ様のあの表情を御覧なさい

まるで童心に帰ったような幸せそうな顔をしてらっしゃるではないですか





私からも
お願いします

どうか：
おじ様今世
最期の思い出に……！！

おオオオオ



わあ：
わあ
ひさしゆり

うまく
弾けるかなあ

ス
ス
ス



ほーれ
もつとちゃんと
啜えないと
いい音はでないぞ

ス
ス



う…
ど
ど



ア
ア
ア

ア
ア
ア







ああ、
キツキツだけど
気持ちいい!!

おお：
いい具合じゃ

昔はよく
こうやって身体を
寄せ合ってみんなで
頑張ってきたもんじゃ



ギョッ

うっ、やべ
イギョ

ギョッ

ギョッ

フキッ



おじ様の
危機とあれば
みな戻ってくる



おじ様の仰る通りだ
離れていても我々は
繋がっている



わしの可愛い
子供たちよ



さあ今日は
みんなの大好きな
ユウナねえさんが
帰ってきたよ





一緒に
肉欲に溺れま
しょう

大丈夫
怖くないわ

ゴロゴロ

おれや

ゴロゴロ



ユウナ
ねえさま

うれし

かぶり

帰ってきて
くれたんですね



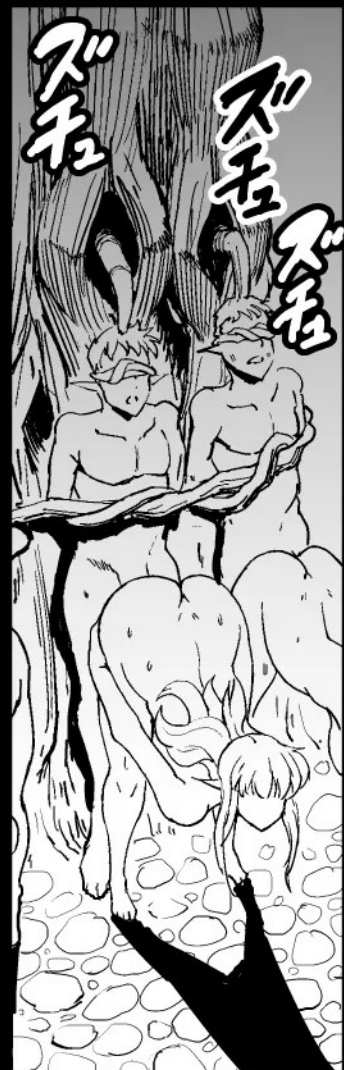
安心して
男のひとも何人か
帰ってきてる

ドクン
ドクン



気持ちい？

ぴちや
ぴちや





じじ様

良かったですな

ユウナ様も
すっかりここが
お気に召したようで



まだ戻ってきてきておらん連中も
彼女が戻ってきたことを
知ればきつと戻ってくるに
違いない

そうすれば
この里も甦る

